

## カレッジミーティング in 三重大学（第1回目）を開催

平成20年10月9日、三重大学において三重大学大学院生物資源学研究科共生環境学専攻水資源工学研究室 加治佐教授の講義の一コマをお借りし、学生約20名を対象に「水土里フォーラム カレッジミーティング in 三重大学」を開催し、整備部設計課の森瀧農業土木専門官が講演しました。

まず、農林水産省で食料自給率向上に向けて作成した「食料の未来を確かなものにするために」（DVD）を放映しました

次いで、国営事業が実施される様になった社会的歴史的背景を第1号の国営事業の背景及び現在の世界の食料事情について、パワーポイントを使用して約70分説明しました。

概要は、我が国では明治以降の近代化と人口増加による食料需要増大に伴い、当時植民地であった台湾や朝鮮で産米増殖計画を実施するとともに、ブラジル移民や満州開拓を推進する一方、国内での食糧の安定的確保や、世界大恐慌後の昭和恐慌対策としての民心安定の観点から第1号の国営事業が開始された歴史背景がありましたが、こうした歴史背景に鑑み、現代の世界的人口増加やバイオマス需要増加、地球温暖化に伴い世界的な「食糧争奪」が懸念されてくる中、食料安全保障上、国営事業には大きな意義があるというものです。

最後に、2010年名古屋で開催予定の生物多様性条約締約国会議 COP10に向けて東海農政局としても積極的に対応することから、生態系に配慮した基盤整備やコミュニティー形成とともに、耕作放棄地解消に向けて都市との交流を行い、農村地域を活性化させることが重要と締めくくりました。

学生からは、DVDは分かりやすく今後の生活について考えさせられた。食生活を見直そうと思った。国営事業の始まりや過程が理解でき、ためになった。などの感想がありました。

